

本邦におけるロールシャッハ法に関する文献一覧

—1959年までの黎明期—

佐渡 忠洋*1・田口 多恵*2・伊藤 宗親*3・田中 生雅*1・山本 眞由美*1

本稿の目的は、日本で報告されたロールシャッハ法の文献を、研究者が使用しやすい形で報告することである。今回は、1959年までの一覧を作成した。一覧には、273編の文献（論文および著書）を年代順に記した。加えて、2011年までのロールシャッハ法の専門書籍123冊、ロールシャッハ法を用いた（中心に据えた）博士論文95編の覧も作成して加えた。この情報は、わが国のロールシャッハ法輸入過程と発展過程を検討するための文献学的・歴史学的資料となり、研究者の文献検索に役立つことを期待する。

〈キーワード〉 輸入過程, 黎明期, 文献一覧

I はじめに

Hermann Rorschach (1884-1922) の卓見により、ロールシャッハ法 (Rorschach's Inkblot Method ; RIM) が創案されて 90 年以上を経た。わが国において、RIM は依然として臨床現場での使用頻度が高い (小川, 2011)。しかし、RIM の科学的信頼性に関しては少なからず批判もある (例えば, Wood et al, 2003/2006)。したがって、RIM の研究者と実践者は、実践的で治療的な報告を継続しながら、多方面からの批判に誠実に応えなければならない使命を担っている。

筆者は、「日本におけるロールシャッハ法の輸入過程と発展過程の検討」の取り組みに対して平成 23 年度より学術振興財団科学研究費補助金による研究助成を受け、わが国の RIM 史の初期一端を明らかにしていこうとしている。そこで本稿では、1959 年までにわが国で報告された文献を一覧にまとめ、他の研究者と共有できる形で報告することとした。1959 年までとしたのは、次の三つの理由からである。それは、1) 現在わが国で最も普及しているスコアリング・システムである、いわゆる「片口法」が 1950 年代後半に考案されたこと、2) 1960 年代にはわが国の RIM 研究が極めて盛んになること、3) わが国の RIM 研究を牽引してきた『ロールシャッハ研究』が 1958 年に刊行され始めたこと、である。このこ

とから、筆者は 1959 年以前と 1960 年以後とを区別し、前者をわが国の RIM 黎明期と捉えることとした。この時期の研究を検討することで、わが国への RIM 輸入過程と初期の発展過程の特徴を明らかにできると考えたからである。

これまで、RIM 研究者は、『改訂 新・心理診断法』(片口, 1987) の末尾に付されている文献情報を活用してきと推察する。しかし、本報告はさらに詳細で、実際に筆者らが確認した文献の原本から忠実に作成している。いわば、RIM 黎明期の文献情報としては、現在最も信頼でき、改めて報告する価値を有しているといえよう。今回確認し得た文献は、岐阜大学機関リポジトリより pdf データをダウンロードできるようにして、文献検索を容易にするので、他の研究者の役に立てば幸いである。

さらに、作成した文献一覧の後に、2011 年までの RIM の専門書籍 123 冊と、RIM を用いた（中心に据えた）博士論文 95 編の覧も加えることで、より活用しやすい資料になるよう工夫した。

II 文献の収集方法

筆者は、『NII 論文情報ナビゲータ (<http://ci.nii.ac.jp/>)』と『Journal Archive (<http://www.journalarchive.jst.go.jp/>)』のデータベースを用いて、2011 年 8 月の時点で

*1 岐阜大学保健管理センター

*2 浜松大学臨床心理教育実践センター

*3 岐阜大学情報総合メディアセンター

The Literature of the Rorschach's Inkblot Method in Japan: 1932-1959

「ロールシャッハ」「ロールシャハ」「Rorschach」で論文を検索し、該当した 1970 年までの文献を収集した。さらに、収集した論文と、すべての RIM 専門書籍の引用文献も精査する方法で文献を検索した。その作業を新たな文献が発見されなくなるまで続けた。その後、抄録および一覧に加えることは無意味であると判断された文献（本文中で「代表的な投映法にロールシャッハ法がある」や「ロールシャッハ法の研究でも同様の報告がある」など、技法への言及にとどまり、RIM の文献とは判断しがたいもの）は除いた。

最終的に収集できた 1959 年までの文献（論文および著書）は 273 編であった。それらを年代ごとに著者・題目・雑誌名・巻号・頁の順で以下に示す。記述は論文冒頭の記載に忠実に従ったが、雑誌名は現代漢字に統一した。なお、存在は確認できても、所蔵がわからず複写できない文献のいくつかは、本一覧から除外した。

Ⅲ 文献一覧

◀論文および著書（年代順）▶

◆1930年

岡田強：ロールシャッハ氏ノ所謂「精神診断學」ノ實驗的考察（第一回報告）——ロールシャッハ氏精神診断學用「テキスト」ニ於ケル形態並ニ意味ノ研究。神経学雑誌, **32** (5), 361-373.

岡田強：ロールシャッハ氏ノ所謂「精神診断學」ノ實驗的考察（第二回報告）——ロールシャッハ氏「精神診断學」ノ施行方法ニ對スル實驗的研究。神経学雑誌, **32** (6), 433-441.

内田勇三郎・松井三雄・本田實昌・谷本揆一・山根薫：素質の實驗類型心理學的研究(一)。教育心理研究, **5**, 323-345.

内田勇三郎・松井三雄・本田實昌・谷本揆一・山根薫：素質の實驗類型心理學的研究(二)。教育心理研究, **5**, 385-417.

◆1932年

岡田強：ロールシャッハ氏ノ精神診断學ニ於ケル反應ノ質的分類並ニ本法ニヨル供述異常ノ分析（上）。神経学雑誌, **35** (2), 147-190.

岡田強：ロールシャッハ氏ノ精神診断學ニ於ケル反應ノ質的分類並ニ本法ニヨル供述異常ノ分析（中）。神経学雑誌, **35** (3), 249-265.

岡田強：ロールシャッハ氏ノ精神診断學ニ於ケル反應ノ質的分類並ニ本法ニヨル供述異常ノ分析（下）。神経学雑誌, **35** (4), 336-356.

◆1934年

久保良英：精神薄弱兒の研究。応用心理研究, **3** (1), 117-129.

◆1939年

小保内虎夫・須見喜六：繪畫聯想の標準頻數表作成と聯想を規定する諸條件の研究。心理学研究, **13** (4), 389-395.

◆1941年

宮田義雄：正常兒及び精神薄弱兒に於けるロールシャッハ検査像の差異。Philosophia, **11**, 171-194.

◆1942年

本明寛：ロールシャッハ検査に於ける良形態反應の研究。心理学研究, **17** (2), 271-281.

◆1943年

橋本健一：ロールシャッハの精神診断學に就て。精神と科学, **17** (7), 1-24.

橋本健一：ロールシャッハの精神診断學に就て（二）。精神と科学, **17** (8), 1-19.

橋本健一：ロールシャッハの精神診断學に就て（三）。精神と科学, **17** (10), 1-19.

橋本健一：ロールシャッハの精神診断學に就て（四）。精神と科学, **17** (11), 32-35.

城谷敏男：前頭腦切除患者（癲癇）に施行せるロールシャッハ精神診断法に就て。北越医学会雑誌, **58**, 619-654.

◆1945年

守屋光雄：ロールシャッハ氏圖形解釋検査法の吟味。児童心理學研究。京都印書館。pp. 297-312.

◆1948年

佐竹隆三：Rorschach 判圖法の研究（第 1 報）——集團施行に就て。十全医学会雑誌, **51** (1-3), 70-77.

◆1949年

堀内憲政：行爲問題兒の腦波及びロールシャッハ氏テスト成績並に兩者の關連性について（上）。新潟医学会雑誌, **63**, 572-579.

堀内憲政：行爲問題兒の腦波及びロールシャッハ氏テスト成績並に兩者の關連性について（下）。新潟医学会雑誌, **63**, 652-658.

◆1950年

阿部孫四郎：實態性格の個人検査。性格調査法。ミネルヴァ書房。pp. 124-126. [pp. 1-4 に創作図版あり.]

本明寛：ロールシャッハのターフェル——偶然像の有意味化。美術手帖, **34**, 30-31.

外林大作：雲模様検査法。性格の診断。牧書店。pp. 139-143.

田中賢：パーソナリティの研究法としてのプロジェクト法について。心理学研究, **20** (4), 26-32.

◆1951年

阿部孫四郎：性格投射法——R.T.の指數化。改訂 性格調査法。ミネルヴァ書房。pp. 72-77. [付録に創作図版あり.]

原谷達夫：PERSONALTY 研究に於ける“SYMBOL”の問題。心理学研究, **22** (1), 128-131.

平井信義：グルタミン酸の精神機能に及ぼす影響——文献的考察。栄養と食糧，**4** (3)，79-83。

泉靖一・祖父江孝男・岡並木・徳山安信・大給近達：東京における済州島人。民俗学研究，**16** (1)，1-24。

祖父江孝男：文化人類学に於けるパースナリティの測定方法。人類学雑誌，**62** (2)，81-91。

◆1952年

藤岡喜愛：Rorschach TestによるPersonalityの調査(I)——奈良県磯城郡平野村の場合。京都大学人文科学研究所調査報告，**8**，1-24。

今西錦司：人間。村と人間。新評論社。pp. 183-226。

清原健司・相場均：逆行性健忘症の一例について——心理學的諸検査結果。心理学研究，**23** (2)，80-87。

本明寛：種々のプロジェクティブ・テスト。戸川行男(編)：臨床心理学。金子書房。pp. 52-65。

本明寛：投影の概念——パースナリティ論の背景。*Philosophia*，**22**，43-60。

長坂五朗：ロールシャツハテストに関する研究(その一)。精神神経学雑誌，**54** (4)，219-253。

大伴茂・仲原礼三：ロールシャツハ法の適用に於ける一基本的考察——全體反應について。関西学院大学人文論究，**2** (5-6)，55-66。

外林大作：性格の研究法——プロジェクティブ・テクニックの課題。千輪先生還暦記念事業委員会(編)：最近心理学の諸問題——千輪先生還暦記念論文集。千輪先生還暦記念事業委員会。pp. 166-171。

杉原方：精神分裂病に於ける実験心理学的研究。精神神経学雑誌，**54** (4)，309-317。

高橋茂雄：ロールシャツハ・テストによる犯罪青年と高校生との比較研究。三好稔(編集代表)：古賀先生還暦記念心理学論文集。広島文理科大学心理学教室。pp. 374-383。

◆1953年

藤沢祐：台湾高砂族の心理学的研究。民俗学研究，**18** (1-2)，20-33。

堀見太郎・岩井豊明：消化性潰瘍の人格研究。診療，**6** (7)，538-540。

今西錦司・牧康夫・富川盛道・藤岡喜愛：Rorschach TestによるPersonalityの調査(II)——兵庫縣朝來郡粟鹿村の場合。京大人文科学研究所調査報告，**9**，1-24。

岩井豊明：消化性潰瘍の精神身体医学的考察。脳神経領域，**6** (1)，22-30。

片口安史：肺結核患者にこころみたロールシャツハ・テスト——ロールシャツハ研究(二)。臨床心理，**2** (6)，563-566。

片口安史：解剖反応(At)について——ロールシャツハ研究(一)。児童心理と精神衛生，**4** (1)，1-5。

児玉省：性格診断法(2)——日本人のロールシャツハ反応の研究。日本応用心理学会(編)：心理学講座，第7巻，II，III。中山書店。pp. 1-92。

三木清子：ロールシャツハテクティクにおける明暗反應についての一考察。東京都立大学人文学会 人文学報，

10，93-103。[1962年の『ロールシャツハ研究』，**V**，193-200に再録。]

本明寛：性格診断法(1)。日本応用心理学会(編)：心理学講座，第7巻，II，III。中山書店。pp. 1-62。

村上英治・山口薫：ロールシャツハ・テストについて(その一)。児童心理と精神衛生，**15**，721-733。

村上英治・山口薫：ロールシャツハ・テストについて(その二)。児童心理と精神衛生，**15**，828-835。

錦織透：ロールシャツハ氏精神診断法に依る受刑者の精神医学的研究。精神神経学雑誌，**55** (1)，70-90。

野本道：精神薄弱児の人格診断について——ロールシャツハテストを用いて。児童心理と精神衛生，**15**，758-767。

貫名智啓：心理学的人格研究に関するAvant-garde 繪画の方法に就いて。横浜国立大学人文紀要(第一類，哲学・社会科学)，**2**，1-10。

大西信正：ロールシャツハ診断法及びTATによる肺結核患者の性格。新潟医学会雑誌，**67** (10)，915-937。

◆1954年

浅尾博一：てんかん患者の精神医学的研究(補遺)。精神神経学雑誌，**56** (6)，325-347。

馬場四郎：文化変容と教育——Acculturation & Education(北海道日高国沙流郡平取村大字二風谷における)。教育社会学研究，**5**，1-37。

浜田陽太郎：文化変容と教育(第二部)。教育社会学研究，**5**，38-53。

花田隆：教育研究におけるaction researchの位地。教育社会学研究，**5**，79-91。

藤岡喜愛：人類学的方法としてのRorschach Test。民俗学研究，**18** (3)，273-276。

郡美次：ローシャツハテストによる覚醒剤使用少年と非使用少年との比較。四国矯正科学，**4**，4-10。

守屋光雄：ロールシャツハ氏圖形解釋検査法の吟味。児童心理学研究。京都印書館。pp. 297-312。

仲原礼三：ロールシャツハ・テストにおける色彩カードの効果について。関西学院大学短期大学英文科論叢，**3**，63-71。

中西昇・小西勝一郎：非行少年に施行せるロールシャツハテストについて。大阪市立大学家政学部紀要，**2** (5)，339-344。

小保内虎夫・小笠原慈瑛・辰野千寿：実験6 プロジェクティブ・テスト。入門 心理実験法。中山書店。pp. 25-27。

大西憲明：ロールシャツハ法(Rorschach Test)。性格理解の方法。金子書房。pp. 199-204。

大伴茂：ロールシャツハ法による検査——プロジェクティブメソッド(2)。実験児童心理学。同文書院。pp. 433-444。

佐竹隆三：ロールシャツハ・テスト。井村恒郎・懸田克躬・島崎敏樹・村上仁(責任編集)：異常心理学講座，第一部，異常心理学(1)——診断のためのテスト(1)。みすず書房。pp. 1-104。

- 祖父江孝男：パースナリティの構造について．人類学雑誌，**63** (5)，186-191.
- 多田治夫：大学生に施行した選択ロールシャツハ・テストについて．北陸心理，**2**，1-6.
- 高橋清彦：集団ロールシャツハ・テストに関する研究．精神神経学雑誌，**55** (9)，872-889.
- 田中富士夫：ロールシャツハテストの幼児への適用．北陸心理，**2**，7-13.
- 辻正三・中村陽吉・三木清子・山根英郎：児童における「家族好性序列」の意義に関する二，三の吟味．教育心理学研究，**2** (1)，18-29.
- 吉田孝志：ロールシャツハ・テストに現れた問題児の反応傾向について．児童心理と精神衛生，**4**，359-363.
- ◆1955年
- 相場一郎：ロールシャツハ検査と色彩に就いて．カラーサークル，**7** (8)，4-7.
- Ellenberger, H. F. (著)・山内一佳 (訳)：ロールシャツハの天才心理．東京精神分析学研究所 精神分析，**13** (9)，18-24. [原著：Ellenberger, H. F. (1954) *The life and work of Hermann Rorschach (1884-1922)*. *Bulletin of the Menninger Clinic*, **18** (5)，173-219. (部分訳)]
- Ellenberger, H. F. (著)・山内一佳 (訳)：ロールシャツハ精神診断学の出来るまで．東京精神分析学研究所 精神分析，**13** (7)，1-10. [原著：Ellenberger, H. F. (1954) *The life and work of Hermann Rorschach (1884-1922)*. *Bulletin of the Menninger Clinic*, **18** (5)，173-219. (部分訳)]
- Ellenberger, H. F. (著)・山内一佳 (訳)：心理診断法創案の天才 ロールシャツハの人格．東京精神分析学研究所 精神分析，**13** (3)，1-5. [原著：Ellenberger, H. F. (1954) *The life and work of Hermann Rorschach (1884-1922)*. *Bulletin of the Menninger Clinic*, **18** (5)，173-219. (部分訳)]
- 今西錦司・牧康夫・藤岡喜愛：ロールシャツハ・テストによるパースナリティー調査——立杭の場合．藪内清 (編)：立杭窯の研究．恒星社厚生閣．pp. 203-250.
- 片口安史：外傷性神経症のロールシャツハ反応．心理学研究，**26** (2)，117-118.
- 片口安史：肺結核患者におけるロールシャツハ反応．心理学研究，**26** (2)，118-119.
- 片口安史・田頭寿子：外傷性神経症者のパースナリティーについて——ロールシャツハによる研究．精神衛生研究，**3**，30-41.
- 栗林正男：覚醒アミン中毒者のロールシャツハ・テストに関する研究．精神神経学雑誌，**57** (7)，307-314.
- 本明寛・富田正利：ロールシャツハ・テストに於ける形態水準の評定に関する研究．*Philosophia*，**28**，1-29.
- 森岡健二：文化變容現象として見た共通語化の問題——パースナリティー・テストを通して．東京女子大学論集，**5** (2)，113-143.
- 大平勝馬：ロールシャツハ法による双生児の性格に関する研究．教育心理学研究，**3** (1)，24-29.
- 大平勝馬：身体成熟度とロールシャツハ反応との関係．心理学研究，**26** (2)，106-110.
- 佐伯克：ロールシャツハテストの解釈上の問題．分類鑑別研究，**2**，60-63.
- 佐藤棟男：神経症的児童を形成する乳幼時期環境の分析と考察．心理学研究，**26** (1)，35-43.
- 外林大作：漠然とした模様——ロールシャツハ検査法．改訂 性格の診断．牧書店．pp. 55-96.
- 田中富士夫：ロールシャツハ・テストに於ける反応数について．金沢大学法文学部論集 (哲学史学篇)，**3**，243-260.
- 白居利朋・三輪正：ロールシャツハ・テストについて．職業研究，**9** (7)，32-34.
- ◆1956年
- 浅井敬一：筋緊張型事態反応に関する精神医学的研究．大阪大学医学雑誌，**8** (6)，883-892.
- 浜中董香：心因性チックの発症機序に関する研究．精神神経学雑誌，**58** (9)，521-543.
- 藤岡喜愛・牧康夫・池田徹太郎・岡野正男：Rorschach Test による Personality の調査 (Ⅲ) ——奈良県吉野郡十津川村の場合．京大人文学部研究所調査報告，**14**，1-42.
- 市川宏・山本野實・上杉公男・山田照胤・福永保郎・信田重光・中尾英雄：色覚異常者に観られるロールシャツハについて．交通医学，**10** (2)，192-202.
- 池見西次郎・赤木稔・赤星玄也・井上幹夫・外レントゲン室一同・江頭元治・河手和元・古賀享・児玉裕行・権藤重雄・坂本旭・塩井芳尚・千手昭生・高橋静夫・田原俊彦・銅直春雄・中渡瀬進・中川哲也・中尾克己・中村昭典・平井猖介・福元哲四郎・本田竜城・前田譲治・松尾恒喜・山根和雄・山田朔郎・吉永五郎・外教室員一同・松田正彦・牟田実・小林信義：消化管の神経症．日本消化器病学会雑誌，**53** (8)，347-363.
- 加藤孝・高本壽夫：収容施設における逃走少年のロールシャツハ像について．分類鑑別研究，**3**，84-87.
- 河合隼雄：教育臨床におけるロールシャツハテスト．正木正・倉石精一・黒丸正四郎 (編)：教育心理学実習——臨床・診断．同学社．pp. 156-162.
- 河合隼雄：ロールシャツハテストによる施設児と里子の比較．天理大学学报，**8** (1)，140-148.
- 倉富壽人：ロールシャツハテスト結果の統計的考察．九州矯正，**11** (5)，17-20.
- 南孝夫・佐伯克・喜田史郎・袴田明・安香宏：テストバツテリーの研究——Large Scale Rorschach Techniques．分類鑑別研究，**3**，62-73.
- 村上英治・江見佳俊：ロールシャツハ・ランキング・テストに関する研究．心理学研究，**27** (3)，185-192.
- 新美良純・橋本仁司・大野郁子・望月一靖：ロールシャツハ検査施行中における GSR の変化．心理学研究，**27** (3)，175-184.
- 能美陽一・西村秀雄：プロジェクティブ・テクニックに

- よる非行少年の臨床的診断(第Ⅱ報). 分類鑑別研究, **3**, 92-95.
- 大平勝馬: 双生児における G.S.R.の類似に関する研究. 心理学研究, **27** (1), 15-21.
- 岡野正男: 集団構造とパースナリティ. 心理学研究, **27** (1), 8-14.
- 佐治守夫・片口安史: 心理療法による治療効果の測定に関する研究. 精神衛生研究, **4**, 65-112, 116-119.
- 坂部先平・松井紀和・佐野勝男・榎田仁・梅津耕作: 全生活史に亘る心因性健忘の三症例. 精神医学研究所業績集, **3**, 72-90.
- 佐野勝男・榎田仁: 臨床心理に於けるテスト・バッテリーの構成. 心理学研究, **27** (2), 121-123.
- 沢田慶輔・中西信男・村田宏雄: ロールシャッハ・テスト (Rorschach Test). 人格の測定と診断. 誠信書房. pp. 192-272. [付録が 437-441 にある.]
- 芹野陽一: 非行少年のロールシャッハ反応傾向について. 九州大学教育学部紀要 (教育心理部門), **4**, 75-99.
- 篠田勝郎: ロールシャッハ M 反応について. 分類鑑別研究, **3**, 73-77.
- 砂山延雄・小山國雄: 矯正施設における事故予測についての一考察——事故者のロールシャッハテスト結果に現われた性格偏倚を中心として. 分類鑑別研究, **3**, 77-83.
- 鈴木清: ロールシャッハ・テスト文献解題 (一). 立命館文学, **133**, 447-456.
- 高橋雅春: 非行少年のロールシャッハ反応. 西京大学学術報告, **2** (2), 141-148.
- 滝沢清子: 前頭葉切除前後の Personality 変化に関する一考察. 東京都立大学人文学会 人文学報, **14**, 25-41. [1962年の『ロールシャッハ研究』, **V**, 201-213に再録.]
- 田中富士夫: 集団ロールシャッハにおける形態水準評価の分析. 金沢大学法文学部論集 (哲学史学篇), **4**, 168-183.
- 続有恒・秦安雄・久世敏雄: 実験者-被験者間の Rapport についての一研究——精神薄弱児の知能測定を通して. 心理学研究, **27** (1), 22-28.
- ◆1957年
- 新井康祐・小保内虎夫: 知覚の層構造——電気ショック法による研究. 心理学研究, **28** (2), 94-106.
- 池田徹太郎・河合隼雄: ロールシャッハテストの Pattern Analysis——施設児を対象として. 教育心理学研究, **4** (3), 145-149.
- 鱒崎徹・喜田史郎・南考夫・袴田明・佐伯克・安香宏・山川博臣: テスト・バッテリーの研究——Multiple Choice Rorschach Test と情意微標問診との結果の比較検討. 分類鑑別研究, **4**, 10-13.
- 本多一郎: フラストレーション状況におけるコミュニケーションの実験的研究. 心理学評論, **1** (1), 117-131.
- Huzioka, Y.: A statistical approach to group comparison based on the distribution of Rorschach responses. *Zinbun : Memoire of the Research Institute for Humanistic Studies*, **1**, 23-38.
- Huzioka, Y.: Report on the result of Rorschach test. Kihara, H. (ed.): *Peoples of Nepal Himalaya : scientific Results of the Japanese Expeditions to Nepal Himalaya, 1952-1953. Vol. III*. Kyoto: Fauna and Flora Research Society, KotoUniversity. pp. 363-396.
- 藤岡喜愛: ロールシャッハ反応の数学的分布によるグループ比較のころみ. 心理学評論, **1** (1), 35-49.
- 伊藤正昭: 老年期における神経症の臨床的研究. 精神神経学雑誌, **59** (1), 1-20.
- 加藤考・高本壽夫: 精神薄弱少年のロールシャッハ像について. 分類鑑別研究, **4**, 31-33.
- 小峯友一・前田栄: ロールシャッハ・テスト並びに C.S.T. からみた神経症の予診について. 分類鑑別研究, **4**, 37-41.
- 前田慈照・篠田勝郎・徳山考之: 交通違反者に関する研究 (その1). 分類鑑別研究, **4**, 24-31.
- 森川清・市村潤・酒川靖一郎: 図版 Z・テストの非行少年への適用. 家庭裁判月報, **9** (11), 1-48.
- 丸山芳也・浅川和夫: Z-Test について——個人法. 試験研究, **22**, 2-7.
- 南考夫・佐伯克・山川博臣・喜田史郎・袴田明・安香宏: テストバッテリーの研究——Large Scale Rorschach Test. 分類鑑別研究, **4**, 1-10.
- 本明寛: ロールシャッハ・テストにおける形体水準の診断的価値について. 心理学評論, **1** (1), 61-69.
- 本明寛・富田正利・湯本泰道: ロールシャッハ・テストにおける反応の質的評価に関する研究 I ——形体水準の評定について. 心理学研究, **28** (2), 86-93.
- 村上英治: ロールシャッハ・テストにおける人間関係に関する研究 (1) ——「父親カード」と「母親カード」の分析. 名古屋大学教養部紀要, **2**, 1-10.
- 村上邦男・野田寛隆: ロールシャッハ・テストによる知能診断に関する研究——年少児に試みた Klopfer 等の“Form-Level Rating”. 心理学研究, **27** (5), 375-377.
- 長坂五朗: ロールシャッハ・テスト. 内村祐之・笠松章・島崎敏樹 (編): 精神医学最近の進歩. 医歯薬出版. pp. 211-221.
- 野田輝雄: 非行少女の精神医学的研究——心理テストとソシオメトリーを中心として. 矯正医学, **6** (2), 1-33.
- 大倉和夫: 非行少年に対するロールシャッハ・テスト研究——熊本地方一〇〇例の少年非行について. 家庭裁判月報, **9** (5), 1-37.
- 佐竹隆三: ロールシャッハ・テストに関する研究 (第34報)——Tafeln-Z-Test の有用性について. 矯正医学, **6** (特別), 49-52.
- 沢田義男・篠田勝郎: 分裂病者に施したロールシャッハ・テスト結果. 分類鑑別研究, **4**, 19-23.
- 芹野陽一: 受刑者のロールシャッハ反応. 九州矯正, **12** (12), 24-27.

- 祖父江孝男：文化人類學に於けるロールシャハテスト使用の問題。人類学雑誌，**65** (4)，180-189.
- 杉本直人：内因性精神病におけるロールシャハテストの研究。精神神経学雑誌，**59** (7-8)，550-578.
- 鈴木清：ロールシャハ・テスト文献解題 (二)。立命館文学，143，277-288.
- 高橋宏：飲酒嗜癖。内村祐之・笠松章・島崎敏樹 (編)：精神医学最近の進歩。医歯薬出版。pp. 451-462.
- 高橋雅春：集団ロールシャハ法の問題。心理学評論，**1** (1)，50-60.
- Takahashi, S. : Differences and consistency of performance in two repeated Rorschach administrations. 香川大学学芸学部研究報告 (第1部)，**10**，1-8.
- 高橋茂雄：ロールシャハ検査方法についての研究——カード提示順序の実験結果に及ぼす影響。香川大学学芸学部研究報告 (第1部)，**9**，22-31.
- 田中富士夫：ロールシャハ・テクニクに於ける形態水準判定法の発展と問題。金沢大学法文学部論集 (哲学史学篇)，**5**，198-213.
- 辻悟：前号ロールシャハ・テスト関係論文について。心理学評論，**1** (2)，292-299.
- ◆1958年
- Ellenberger, H. F. (著)・大槻憲二 (訳)：ヘルマン・ロールシャハの生涯と業績 (上)。ロールシャハ研究，**I**，1-20。<原著; Ellenberger, H. F. (1954) : The life and work of Hermann Rorschach (1884-1922). *Bulletin of the Menninger Clinic*, **18** (5)，173-219。> [1959年の『下』とともに，1964年のRorschach, H. (著)・ロールシャハ研究会 (訳)『精神診断学』pp. 235-278に所収.]
- 堀見太郎・杉原方・長坂五朗：歴史的発展と意義。戸川行男・村松常雄・児玉省・懸田克躬・小保内虎夫 (監修)，本明寛・外林大作 (編)：ロールシャハ・テスト I (心理診断双書 第一巻)。中山書店。pp. 1-39.
- 堀見太郎・辻悟・浜中董香・沖野博：投映法による異常児の把握。石橋俊実 (編) 異常児——医学的研究。診断と治療社。pp. 25-48.
- 堀見太郎・辻悟・長坂五朗・浜中董香：分析と解釈の諸問題——A 阪大スケール。戸川行男・村松常雄・児玉省・懸田克躬・小保内虎夫 (監修)，本明寛・外林大作 (編)：ロールシャハ・テスト I (心理診断双書 第一巻)。中山書店。pp. 143-196.
- 星野命：米国におけるロールシャハ技法訓練の状況その他。ロールシャハ研究，**I**，158-164.
- 藤岡喜愛：人類学におけるパースナリティーの問題——ロールシャハ・テストによる比較研究。思想，**412**，1434-1444.
- 藤岡喜愛：I-c コンビネーションの意義について——辻氏の批判によせて。心理学評論，**2** (1)，157-159.
- 市村潤：ロールシャハ・テストに現われた非行少年とその両親のパーソナリティー。心理学研究，**29** (4)，246-252.
- 市村潤：ロールシャハ・テストで見た非行少年とその両親の性格。家庭裁判月報，**11** (2)，29-46.
- 市村潤：就学前幼児におけるロールシャハ・テストの研究。教育心理学研究，**6** (2)，92-99.
- 金平文二：集団用 Z-Test (その1) ——実施法について。試験研究，**23**，38-50.
- 金平文二：集団用 Z-Test (その2) ——適用結果について。試験研究，**24**，14-28.
- 菅野寿：Rorschach Test に関する1研究——特殊地域を対象として行つた結果の検討。新潟医学会雑誌，**72** (9)，922-926.
- 菅野寿：Rorschach Test による精神分裂病の知的障害に関する研究。新潟医学会雑誌，**72** (8)，760-773.
- 片口安史：知能検査，性格検査と児童の診断。三木安正 (編)：児童心理学。共立出版。pp. 209-239.
- 片口安史：ロールシャハ同性愛指標 (RHI)。ロールシャハ研究，**I**，86-94。[1964年の『ロールシャハ研究』，**VII**，95-106に英訳再録.]
- 片口安史：ロールシャハ・テストの心理療法への適用。心理学評論，**2** (2)，216-232.
- 片口安史・田頭寿子・高柳信子：ロールシャハ分裂病得点 (RSS)。心理学研究，**28** (5)，273-281.
- Kawai, H. : A modification of the multiple choice Rorschach for Japanese. 天理大学学報，**25**，168-186.
- 河合隼雄・山本昭二郎・宇佐晋一：「ロールシャハ予後評定尺度」の妥当性に関する一研究——森田療法を対象として。ロールシャハ研究，**I**，95-106.
- 小保内虎夫：ロールシャハ法の批判と展望。戸川行男・村松常雄・児玉省・懸田克躬・小保内虎夫 (監修)，本明寛・外林大作 (編)：ロールシャハ・テスト II (心理診断双書 第二巻)。中山書店。pp. 291-301。[1969年の『ロールシャハ研究』，**XI**，259-265に再録.]
- 児玉省：分析と解釈の諸問題——C 日本女子大式 (日本人のロールシャハ反応の基準)。戸川行男・村松常雄・児玉省・懸田克躬・小保内虎夫 (監修)，本明寛・外林大作 (編)：ロールシャハ・テスト I (心理診断双書 第一巻)。中山書店。pp. 223-270.
- 児玉省：児童のロールシャハ反応の研究——Meili-Dworetzki 女史の批判。ロールシャハ研究，**I**，107-130.
- 久間利昭：てんかん患者のロールシャハ特徴について——Delay, Pichot, Lempérière, Perse の共著から。ロールシャハ研究，**I**，203-233.
- 栗林正男：ロールシャハテストによる精神分裂病の予後推測に関する研究。堺脳病院研究業績集，**2**，67-74.
- 栗林正男・岩井勤作：進行麻痺の臨床心理学的研究。堺脳病院研究業績集，**2**，43-52.
- 丸山芳也・浅川和夫・太宰昭馬：個人用 Z-テスト——われわれの実施経験にもとづいて。ロールシャハ研究，**I**，170-202.

- 村松常雄・村上英治：分析と解釈の諸問題——B 名大スケール. 戸川行男・村松常雄・児玉省・懸田克躬・小保内虎夫（監修），本明寛・外林大作（編）：ロールシャッハ・テスト I（心理診断双書 第一巻）. 中山書店. pp. 197-222.
- 本明寛：投影法の一つの進路. *Philosophia*, **35**, 133-145.
- 本明寛・滝沢清子・富田正利・湯本泰道：臨床的実施法と分析法. 戸川行男・村松常雄・児玉省・懸田克躬・小保内虎夫（監修），本明寛・外林大作（編）：ロールシャッハ・テスト I（心理診断双書 第一巻）. 中山書店. pp. 41-141.
- 本明寛・富田正利：ロールシャッハ検査に関する実験的研究. 戸川行男・村松常雄・児玉省・懸田克躬・小保内虎夫（監修），本明寛・外林大作（編）：ロールシャッハ・テスト II（心理診断双書 第二巻）. 中山書店. pp. 275-289.
- 本明寛・富田正利・湯本泰道：最近における Rorschach Test の決定因に関する文献. *心理学研究*, **29** (2), 134-140.
- 村上英治・片口安史：パーソナリティ検査. 千輪浩（監修）：臨床心理学. 誠信書房. pp. 211-261.
- 村上英治・植元行男・秋谷たつ子：ロールシャッハ・テストにおける不安の研究 I ——感情カテゴリーについて. *ロールシャッハ研究*, **1**, 76-85.
- 村上英治・植元行男・谷口真弓：社会調査におけるロールシャッハ法. 戸川行男・村松常雄・児玉省・懸田克躬・小保内虎夫（監修），本明寛・外林大作（編）：ロールシャッハ・テスト II（心理診断双書 第二巻）. 中山書店. pp. 97-143.
- 長坂五朗：ロールシャッハ十余年. *ロールシャッハ研究*, **1**, 149-157.
- 長坂五朗・安達博司：Beck の Z スコアについて. 堺脳病院研究業績集, **2**, 94-99.
- 長坂五朗・安達博司：精神分裂病に於けるロールシャッハの類型分析. 堺脳病院研究業績集, **2**, 75-79.
- 長坂五朗・武川圭弘：精神分裂病の Rorschach Test に於ける Pathological Thinking について. 堺脳病院研究業績集, **2**, 80-87.
- 長坂五朗・武川圭弘：精神病患者の言語表現について ——表現形式の再考察. 堺脳病院研究業績集, **2**, 88-93.
- 長坂五朗・辻悟：臨床的適用. 戸川行男・村松常雄・児玉省・懸田克躬・小保内虎夫（監修），本明寛・外林大作（編）：ロールシャッハ・テスト II（心理診断双書 第二巻）. 中山書店. pp. 1-95.
- 長坂五朗・栗林正男・武川圭弘：Rorschach scoring に関する研究. 堺脳病院研究業績集, **2**, 53-65.
- 安永浩・徳田良仁・栗原雅直：精神分裂病患者の絵画についての一考察. *精神神経学雑誌*, **60**(12), 1363-1375.
- 西村秀雄：高血圧者（五〇才以上）に実施したロールシャッハテストについて. *Philosophia*, **34**, 205-215.
- 小栗有恒・福井富蔵：非行少年に実施したロールシャッハテストについて（その I）——P 反応（平凡反応）について. *四国矯正科学*, **10**・**11**, 81-84.
- 小栗有恒・福井富蔵：非行少年に実施したロールシャッハテストについて（II）——反応数について. *四国矯正科学*, **12**, 28-30.
- 大伴公馬：ロールシャッハ・テスト（Rorschach Test）. 人格診断法. 黎明書房. pp. 213-248.
- 佐伯克：少年鑑別所におけるロールシャッハ・テストの適用について. *ロールシャッハ研究*, **1**, 140-148.
- 鮫島拓彌：外傷性神経症の臨床心理学的研究. *精神神経学雑誌*, **60** (2), 187-196.
- 更井啓介・出宮一徳：一卵性双生児における不一致性精神分裂病の一例. *岡山医学会雑誌*, **70**(9), 3479-3488.
- 佐竹隆三・田中富士夫：ロールシャッハ法の変法と平行系列. 戸川行男・村松常雄・児玉省・懸田克躬・小保内虎夫（監修），本明寛・外林大作（編）：ロールシャッハ・テスト II（心理診断双書 第二巻）. 中山書店. pp. 145-273.
- 祖父江孝男：文化・社会の調査における Rorschach Test の使用——Cross-cultural な妥当性の有無を中心として. *ロールシャッハ研究*, **1**, 131-139.
- 菅原和夫：精神薄弱に対するグルタミン酸ソーダ注射療法——Rorschach Test からみた臨床効果. *弘前医学*, **9** (2), 198-210.
- 砂山延雄：非行少年の鑑別診断とそれにもとづく指導方法の研究（第一報）——保護観察処分された非行少年について. *矯正医学*, **7** (3), 48-57.
- 高橋進・小此木啓吾・木村礼子：ロールシャッハ・テストの精神分析学的研究（その一）. *精神分析研究*, **5** (1), 14-43.
- Kawai, H. : A modification of the multiple choice Rorschach for Japanese. *天理大学学报*, **25**, 168-186.
- 田中富士夫：非行少年の脳波とロールシャッハ反応の関係. *心理学研究*, **29** (4), 272-276.
- 田中富士夫：ロールシャッハ反応の形態質評価のための反応リスト. *金沢大学法文学部論集（哲学史学篇）*, **6**, 126-150.
- 田中富士夫：ロールシャッハの運動反応と知能との関係. *教育心理学研究*, **6** (2), 85-91.
- 田中富士夫：ロールシャッハ・テストの形態水準評定法の研究. *ロールシャッハ研究*, **1**, 51-67.
- 富田正利・内山祥子：ロールシャッハ検査における運動反応の実験的研究. *ロールシャッハ研究*, **1**, 68-75.
- 辻悟・浜中薫香：児童の反応. 戸川行男・村松常雄・児玉省・懸田克躬・小保内虎夫（監修），本明寛・外林大作（編）：ロールシャッハ・テスト I（心理診断双書 第一巻）. 中山書店. pp. 271-348.
- 辻悟・藤井久和：ロールシャッハ・テストのコンテンツ・アナリシスに関する研究 I. *ロールシャッハ研究*, **1**, 32-50.
- 辻悟・藤井久和・大海作夫・恵美周子：ロールシャッハ・テストの間隙反応について. *ロールシャッハ研究*, **1**, 21-31.

渡辺康：アメリカにおけるロールシャッハ実習の経験。
ロールシャッハ研究, **I**, 165-169.

◆1959年

Arai, S. and Kamiyama, I. : Follow-up study of normal children with special reference to Rorschach responses. *Paediatrica Japonica*, **2** (2), 45-54.

新井清三郎・水野隆・佐々木敏夫・堀浩・加藤正実・安田恒人・見沢修己・小野尋子・鈴木いつ：てんかん小児の follow-up study—脳波並びに Rorschach test を中心として。小児科臨床, **12** (11), 1112-1119.

Ellenberger, H. F. (著)・大槻憲二・山内一佳 (訳)：ヘルマン・ロールシャッハの生涯と業績 (下)。ロールシャッハ研究, **II**, 177-201。<原著; Ellenberger, H. F. (1954) : The life and work of Hermann Rorschach (1884-1922). *Bulletin of the Menninger Clinic*, **18** (5), 173-219。> [1958年の『上』とともに, 1964年の Rorschach, H. (著)・ロールシャッハ研究会 (訳)『精神診断学』pp. 235-278 に所収。]

林憲：中華民国におけるロールシャッハ・テストの現状。ロールシャッハ研究, **II**, 231-233.

林脩三：分裂病双生児のロールシャッハ・テストについて。中脩三 (編)：精神分裂病。医学書院。pp. 293-298.

堀内治世：ロールシャッハカードの瞬間露出提示による知覚過程の分析。同志社大学人文学会 人文学, **45**, 11-31.

藤井久和：ロールシャッハ・テストのコンテンツに関する研究。大阪大学医学雑誌, **11** (5), 1535-1546.

藤本文朗：内・外因精神薄弱児の知覚行動の相違—ロールシャッハ・テクニクによる。ロールシャッハ研究, **II**, 155-158.

福井富蔵：非行少年に実施したロールシャッハテストの結果について (そのVI) —非行少年と FM 反応。四国矯正科学, **14**, 13-16.

藤岡喜愛：反応の種類に関する考察。ロールシャッハ研究, **II**, 1-21.

藤岡喜愛：ロールシャッハ反応集—日本農山村男性世帯主の場合。京都大学人文科学研究所調査報告, **18**, 1-185.

市村潤：ロールシャッハ・テストと比較した図版 Z テストについて。心理学研究, **29** (6), 396-398.

市村潤・八坂芙美子：ソシオメトリック・テストにおける好嫌選択とロールシャッハ反応との関係。ロールシャッハ研究, **II**, 22-29.

池田克明：災害における人的要因の産業精神医学的研究 (第3編)。産業医学, **1** (3), 245-259.

伊藤正昭・杉村史郎：老人に施行せるロールシャッハ・テストに関する研究 I。ロールシャッハ研究, **II**, 30-38.

片口安史：修正 BRS について。ロールシャッハ研究, **II**, 159-163.

加藤正実：常同症に関する考察—ロールシャッハテストの所見に基いて。東北医学雑誌, **60**, 526-531.

加藤正実：ロールシャッハテストの応答内容に関する研究—死刑囚を対象として。東北医学雑誌, **60**, 532-546.

河合隼雄・倉石精一・梅本堯夫：ロールシャッハ・テストによる数学不得意生徒の性格分析—各科教育法に関する教育心理学的研究 II (数学科その 2)。教育心理学研究, **6** (3), 168-174.

河村高信・小坂英世：ロールシャッハ・テストによる精神分裂病の新しい 6 分類—Beck の The Six Schizophrenias について。ロールシャッハ研究, **II**, 202-212.

桑原寛：気管支喘息の精神身体医学的観察。福岡医学雑誌, **50**, 1711-1727.

前田栄：女子非行少年の臨床心理学的研究—ロールシャッハ検査像。社会福祉, **6**, 97-110.

松村康平・松本朋子・荒尾良子：ロールシャッハ・テストの新しい操作法—折半法と話し合い法。ロールシャッハ研究, **II**, 102-109.

Motoaki, H. : Rorschach Kenkyu (Rorschachiana Japonica). *Psychologia*, **2** (2), 133-134.

森彬：性的非行少年のロールシャッハ反応について—性反応を中心とする一考察。矯正職務研究, **4**, 70-76.

森正義・中村比早子・水野浜子・河田宏：Rorschach Test の拒絶 (Rejection) についての考察—主としてロボットミー手術後患者, 外傷性神経症, 正常老人の場合。精神神経学雑誌, **61** (16), 2232-2236.

村上英治・江見佳俊・植元行男・秋谷たつ子・西尾明・後藤聡：ロールシャッハ反応の標準化に関する研究—カード特性の分析。ロールシャッハ研究, **II**, 39-85.

長坂五朗：ロールシャッハ・テスト。井村恒郎・懸田克躬・西丸四方・猪瀬正・笠松章・台弘 (編)：精神医学臨床検査法。医歯薬出版。pp. 109-136.

中江正太郎：森田療法による神経質症の状態像変化—Rorschach Test による研究。精神医学, **1** (7), 489-498.

中江正太郎：神経質症の森田療法による治療効果及びその精神病理に関する研究—ロールシャッハ・テストによる。ロールシャッハ研究, **II**, 86-101.

中村徳次郎：肺結核患者にこころみた心理検査。防衛衛生, **6** (12), 524-529.

新田彰子・岡部正三：臨床症状とロールシャッハ・テストとの対応について—10 例の観察。ロールシャッハ研究, **II**, 164-166.

小川暢也：Rorschach Test による神経症診断の基準について。九州神経精神医学, **7** (3-4), 438-446.

小川暢也：ロールシャッハ・テストよりみた胃・十二指腸潰瘍。精神分析研究, **6** (3), 43-45.

小栗有恒・福井富蔵：非行少年に実施したロールシャッハテストについて (その III) —全体反応について。四国矯正科学, **13**, 9-18.

小此木啓吾・馬場礼子：ロールシャッハ・テストの精神分析学的研究 (その二) —強迫症的防衛機制の研究

「第一報」. 精神分析研究, **6** (3), 8-42.

小此木啓吾・馬場礼子: 自我機能の弾力性と適応性について——ロールシャッハ・テストの精神分析学的研究 (その三). 精神分析研究, **6** (4), 8-19.

大西憲明: 精神薄弱児の人格的適應に関する研究 (六) ——ロールシャッハ法に見られる諸反応の考察. 大谷大学哲学会 哲学論集, **5**, 18-44.

佐伯克: ロールシャッハ・テストと Z テストとの関係について——矯正施設におけるその適用. 矯正医学, **8** (3), 105-116.

佐竹隆三・田中富士夫: アミタール・ソーダがロールシャッハ反応に及ぼす影響. ロールシャッハ研究, **II**, 110-128.

志満俊雄: 精神分裂病寛解状態におけるロールシャッハ・テスト. 山口医学, **8** (5), 1034-1038.

新海安彦・中川大倫・五十嵐齊一・新井康祐・中村太郎・工藤節郎: 取扱困難なる少年受刑者の精神医学的ならびに臨床心理学的研究 (第 1 報). 矯正医学, **8** (2), 1-16.

新海安彦・中川大倫・五十嵐齊一・新井康祐・香原志勢・河野元昭・穴田秀男・工藤節郎・牛山美雄・中村太郎: 取扱困難なる少年受刑者の精神医学的ならびに臨床心理学的研究 (第 2 報). 矯正医学, **8** (4), 24-51.

十河一: ロールシャッハテストよりみた収容者の実態. 矯正職務研究, **2**, 16-20.

空井健三: 非行少年のロールシャッハ・プロトコル解釈のための資料——Schachtel の論文から. ロールシャッハ研究, **II**, 213-226.

杉原方・篠置昭男: 浮浪者のパーソナリティ I ——主としてロールシャッハ・ソディテストによる. 関西学院大学 人文論究, **10** (1), 22-50.

杉原方・篠置昭男: 浮浪者のパーソナリティ II ——主としてロールシャッハ・ソディ・テストによる. 関西学院大学 人文論究, **10** (2), 63-96.

高橋茂雄: カード提示順序の変更がロールシャッハ検査結果に及ぼす影響 (1). 心理学研究, **30** (2), 113-121.

高橋茂雄: ロールシャッハ・テストと TAT との関連——特に攻撃性について. ロールシャッハ研究, **II**, 129-142.

高石昇: 皮膚疾患の精神身体医学的研究——慢性蕁麻疹, 円形脱毛症について. 皮膚, **1** (2), 93-121.

竹村堅次: 非定型分裂病の臨床的研究. 精神神経学雑誌, **61** (8), 1087-1117.

滝沢清子: ロールシャッハ・テクニクにおける知能概念について. ロールシャッハ研究, **II**, 167-176.

筒井健雄: Harrower と Steiner の集団ロールシャッハ法について. ロールシャッハ研究, **II**, 227-230.

辻悟・藤井久和: ロールシャッハ・テストのコンテンツ・アナリシスに関する研究 II ——動物反応について. ロールシャッハ研究, **II**, 143-154.

山田治: いわゆる職業性けいれん症の発生機転について——書けいを代表とする一群の疾患. 精神神経学雑誌,

61 (12), 1610-1623.

山口昭三: 非定型精神病のロールシャッハテスト. 新潟医学会雑誌, **73** (3), 485-492.

山本多喜司: ロールシャッハテストの因子分析的研究. 広島大学教育学部紀要 (第一部), **7**, 165-178.

《専門書籍 (2011 年まで: 著者 abc 順) 》

RIM について著された書籍は数多くある. ただし, ここでは RIM が中心的に取り上げられている書籍を抽出し, 一覧にまとめた.

秋谷たつ子 (1973) 心の映像——プロジェクションの世界. 紀伊国屋書店.

秋谷たつ子 (監修) 順天堂大学心理学グループ (編) (1988) ロールシャッハ法を学ぶ. 金剛出版.

Ames, L. B., Métraux, R. W., Rodell, J. L. and Walker, R. N. (1973) *Rorschach responses in old age*. New York: Brunner/Mazel. [黒田健次・日比裕泰・大島晴子 (訳) (1993) 高齢者の心理臨床学——ロールシャッハ・テストによる. ナカニシヤ出版.]

Ames, L. B., Métraux, R. W., Rodell, J. L. and Walker, R. N. (1974) *Child Rorschach responses: developmental trends from 2 to 10 years, revised edition*. New York: Brunner/Mazel. [村田正次・黒田健次 (訳) (1976) ロールシャッハ児童心理学. 新曜社.]

馬場礼子 (1979) 心の断面図——芸術家の深層意識. 青土社.

馬場礼子 (編著) (1983) 境界例——ロールシャッハ・テストと精神療法. 岩崎学術出版社.

馬場礼子 (1988) 言葉の深層へ. 思潮社.

馬場礼子 (1995) ロールシャッハ法と精神分析——継起分析入門. 岩崎学術出版社.

馬場禮子 (編著) (1997) 改訂 境界例——ロールシャッハテストと精神療法. 岩崎学術出版社.

馬場禮子 (1999) 改訂 ロールシャッハ法と精神分析——継起分析入門. 岩崎学術出版社.

Beck, S. J. (1976) *The Rorschach test: exemplified in classics of drama and fiction*. New York: Stratton Intercontinental Medical Book. [秋谷たつ子・柳朋子 (訳) (1984) ロールシャッハ・テスト——古典文学の人物像の診断. みすず書房.]

Exner, J. E. (1966) *A workbook in the Rorschach technique emphasizing the Beck and Klopfer systems*. Springfield, Illinois: C. C. Thomas. [梅津幸作 (編訳) (1969) ロールシャッハの基本的採点法——ベック方式とクロッパー方式. 日本文化科学社.]

Exner, J. E. (1969) *The Rorschach systems*. New York: Grune & Stratton. [本明寛 (監修) 本明寛・今井もと子・和田美代子 (訳) (1972) ロールシャッ

- ハ・テスト——分析と解釈の基本. 実務教育出版.]
- Exner, J. E. (1986) *The Rorschach : a comprehensive system, Volume 1. Basic foundations, 2nd edition*. New York : Wiley. [高橋雅春・高橋依子・田中富士夫 (監訳) (1991) 現代ローレルシャッハ・テスト体系 (上). 金剛出版. & 秋谷たつ子・空井健三・小川俊樹 (監訳) (1991) 現代ローレルシャッハ・テスト体系 (下). 金剛出版.]
- Exner, J. E. (1990) *A Rorschach workbook for the comprehensive system, 3rd edition*. Asheville, N. C. : Rorschach Workshops. [小川俊樹 (監訳) (1992) 現代ローレルシャッハ・テスト体系, 別巻——ローレルシャッハ・テスト・ワークブック. 金剛出版.]
- Exner, J. E. (1991) *The Rorschach : a comprehensive system, Volume 2. Interpretation, 2nd edition*. New York : Wiley. [藤岡淳子・中村紀子・佐藤豊・寺村堅志 (訳) (1994) エクスナー法ローレルシャッハ解釈の基礎. 岩崎学術出版社.]
- Exner, J. E. (1995) *Rorschach form quality pocket guide, 2nd edition*. North Carolina : Rorschach Workshops. [中村紀子・津川律子・店網永美子・丸山香 (訳) (1999) ローレルシャッハ携帯水準ポケットガイド. エクスナー・ジャパン・アソシエイツ.]
- Exner, J. E. (2002) *Rorschach form quality pocket guide, 3rd edition*. North Carolina : Rorschach Workshops. [中村紀子・津川律子・店網永美子・丸山香 (訳) (2004) ローレルシャッハ携帯水準ポケットガイド (第3版). エクスナー・ジャパン・アソシエイツ.]
- Exner, J. E. (2000) *A primer for Rorschach interpretation*. Asheville, N. C. : Rorschach Workshops. [中村紀子・野田昌道 (監訳) (2002) ローレルシャッハの解釈. 金剛出版.]
- Exner, J. E. (2001) *A Rorschach workbook for the comprehensive system, 5th edition*. Asheville, N. C. : Rorschach Workshops. [中村紀子・西尾博行・津川律子 (監訳) (2003) ローレルシャッハ・テストワークブック. 金剛出版.]
- Exner, J. E. (2003) *The Rorschach : a comprehensive system, volume 1. Basic foundations and principles of interpretation, 4th edition*. New York : Wiley. [中村紀子・野田昌道 (監訳) (2009) ローレルシャッハ・テスト——包括システムの基礎と解釈の原理. 金剛出版.]
- 包括システムによる日本ローレルシャッハ学会 (編) (2005) ローレルシャッハとエクスナー——ローレルシャッハ・テストの起源と発展. 金剛出版.
- 藤岡淳子 (2004) 包括システムによるローレルシャッハ臨床——エクスナーの実践的応用. 誠信書房.
- 藤岡淳子・中村紀子・佐藤豊・木村尚代 (1995) エクスナー法によるローレルシャッハ解釈の実際. 金剛出版.
- Halpern, F. (1953) *A clinical approach to children's Rorschachs*. New York : Grune & Stratton. [本明寛 (監修) 富田正利・松本忠久 (訳) (1971) 児童臨床のためのローレルシャッハ診断. 実務教育出版.]
- 市村潤 (1967) ローレルシャッハテスト——非行少年診断への応用. 新書館.
- 片口安史 (1956) 心理診断法——ローレルシャッハ・テスト. 牧書店.
- 片口安史 (1958) 増補版 心理診断法——ローレルシャッハ・テスト. 牧書店.
- 片口安史 (1960) 心理診断法詳説——ローレルシャッハ・テスト. 牧書店.
- 片口安史 (1966) 作家の診断——ローレルシャッハテストによる創作心理の秘密をさぐる. 至文堂.
- 片口安史 (1974) 新・心理診断法——ローレルシャッハ・テストの解説と研究. 金子書房.
- 片口安史 (1982) 新版 作家の診断——ローレルシャッハ・テストによる創作心理の秘密をさぐる. 新曜社.
- 片口安史 (1987) 改訂 新・心理診断法——ローレルシャッハ・テストの解説と研究. 金子書房.
- 片口安史 (監修) 小沢牧子 (1970) 子どものローレルシャッハ反応. 日本文化科学社.
- 片口安史 (監修) 藤岡新治・松岡正明 (1993) ローレルシャッハ・テストの学習——片口法スコアリング入門. 金子書房.
- 片口安史・星野命・岡部祥平 (編) (1970) ローレルシャッハ法による事例研究. 誠信書房.
- 片口安史・空井健三 (1961) ローレルシャッハ練習問題集. 牧書店.
- カロ研究グループ (1972) カロ・インクプロット・テスト解説——ローレルシャッハ法の新しい展開への試み. 金子書房.
- 河合隼雄 (1969) 臨床場面におけるローレルシャッハ法. 岩崎学術出版社.
- Kerner, J. (原著不明) [宮崎忠男・中井久夫 (訳) (1990) クレクソグラフィ——ローレルシャッハの先駆者・ユスティーンヌス・ケルナーの詩画集. 星和書店.]
- Kleiger, J. H. (1999) *Disordered thinking and the Rorschach : theory, research, and differential diagnosis*. Hillsdale, NJ : Analytic Press. [馬場禮子 (監訳) (2010) 思考活動の障害とローレルシャッハ法——理論・研究・鑑別診断の実際. 創元社.]
- Klopfer, B., Ainsworth, M. D., Klopfer, W. G. and Holt, R. R. (1954) *Development in the Rorschach technique, volume 1 : technique and theory*. New York : Harcourt, Brace & World. Part 1-2 (pp. 3-402). [京都ローレルシャッハ研究会 (訳) (1957) ローレルシャッハ法の発達. 京都ローレルシャッハ研究会. (非売品)]
- Klopfer, B. and Davidson, H. H. (1962) *The Rorschach technique : an introductory manual*. New York : Harcourt, Brace & World. [河合隼雄 (訳) (1964) ローレルシャッハ・テクニック入門. ダイアモンド社.]

- 黒河内平（編）（1962）現代作家の心理診断と新しい作家論——作家と面接してロールシャッハ法による心理診断書発表。至文堂。
- Landis, B. (1970) *Ego boundaries [Psychological issues, Monograph, 24]*. New York: International Universities Press. [馬場禮子・小出れい子（訳）（1981）自我境界（小此木圭吾・西園昌久（監修）精神分析双書, II-7). 岩崎学術出版社.]
- Lerner, P. M. (1998) *Psychoanalytic perspectives on the Rorschach*. Hillsdale, NJ: Analytic Press. [溝口純二・菊池道子（監訳）（2002）ロールシャッハ法と精神分析的視点（上）——臨床基礎編。金剛出版。& 溝口純二・菊池道子（監訳）（2003）ロールシャッハ法と精神分析的視点（下）——臨床研究編。金剛出版。]
- Levitt, E. E. and Truuma, A. (1972) *The Rorschach technique with Children and adolescents: application and norms*. New York: Grune & Stratton. [小滝信夫（監訳）（1977）ロールシャッハ・テクニック——子どもへの適用と診断のノルム。実務教育出版。]
- 松本真理子（2003）子どものロールシャッハ法に関する研究——新たな意義の構築に向けて。風間書房。
- 松本真理子・森田美弥子（監修）鈴木伸子・坪井裕子・白井博美・畠垣智恵・松本真理子・森田美弥子（2009）子どものロールシャッハ反応——形態水準と反応内容。金剛出版。
- McCully, R. S. (1971) *Rorschach theory and symbolism: a Jungian approach to clinical material*. Baltimore: Williams & Wilkins. [片口安史・金城朋子・沢見茂春（訳）（1977）ロールシャッハ象徴学——ユング心理学による解釈。新曜社。]
- 宮考一教授還暦記念論文集刊行会（編）（1968）ロールシャッハ運動反応の研究——宮考一教授還暦記念。宮考一教授還暦記念論文集刊行会。
- 森田美弥子・高橋靖恵・高橋昇・杉村和美・中原睦美（2010）実践ロールシャッハ法——思考・言語カテゴリーの臨床的適用。ナカニシヤ出版。
- 本明寛（1952）臨床的精神診断法解説——早稲田大學心理學教室改訂 ロールシャッハ検査。金子書房。
- 本明寛（1955）集団用人格診断検査の手引。金子書房。
- 本明寛（1955）改訂増補 臨床的人格診断検査解説——臨床心理学研究会改訂 ロールシャッハ検査。金子書房。
- 本明寛（1959）人格診断法——ロールシャッハテスト。金子書房。
- 本明寛（1959）個人用人格診断検査の手引き——ロールシャッハ・テスト。金子書房。
- 村上英治・渡辺雄三・池田博和・細野純子（1977）ロールシャッハの現象学——分裂病者の世界。東京大学出版会。
- 本明寛・野口京子（2007）改訂新版 集団用ロールシャッハ法式人格診断検査 A型/B型手引。金子書房。
- 村上宣寛・村上千恵子（1986）パーソナルコンピュータによるロールシャッハ採点システム。インフォメーションサイエンス。
- 村上宣寛・村上千恵子（1988）なぞときロールシャッハ——ロールシャッハ・システムの案内と展望。学芸図書。
- 村上宣寛・村上千恵子（1991）ロールシャッハ・テスト——自動診断システムへの招待。日本文化科学社。
- 名古屋大学ロールシャッハ研究会 1999年改訂版編集委員会（編）（1999）1999年改訂版 ロールシャッハ法解説——名古屋大学式技法。名古屋ロールシャッハ研究会。
- 中村紀子（2010）ロールシャッハ・テスト講義 I——基礎編。金剛出版。
- 中村紀子（監修）大関信隆（制作）（2010）ロールシャッハ・テスト Sweet Code——コーディング・システム。金剛出版。
- 日本応用心理学会（編）（1960）ロールシャッハ・テストの実際適用例——ロールシャッハ・シンポジウムより（ロールシャッハ研究臨時増刊）。誠信書房。
- 小川俊樹・松本真理子（編著）（2005）子どものロールシャッハ法。金子書房。
- 岡部祥平・菊池道子（1993）ロールシャッハ・テスト Q&A。星和書店。
- 岡堂哲雄・矢吹省司（1976）ロールシャッハ・テスト入門——知覚分析的アプローチ。日本文化科学社。
- 岡本浩一・橋口英俊（1989）十一人の棋風——ロールシャッハと MDS による棋士の心理分析。ブレイン出版。
- 小此木啓吾・馬場礼子（1972）精神力動論——ロールシャッハ解釈と自我心理学の統合。医学書院。
- 小此木啓吾・馬場礼子（1989）新版 精神力動論——ロールシャッハ解釈と自我心理学の統合。金子書房。
- 小野和雄（1968）ロールシャッハ・テストサブノート——Klopper 法、片口法を中心に。医学書院。
- 小野和雄（1991）ロールシャッハ・テスト——その実施・解釈・解釈例。川島書店。
- Piotrowski, Z. A. (1957) *Perceptanalysis: a fundamentally reworked, expanded, and systematized Rorschach method*. New York: Macmillan. [上芝功博（訳）（1980）知覚分析——ロールシャッハ法の体系的展開。新曜社。]
- Rorschach, H. (1921) *Psychodiagnostik: Methodik und Ergebnisse eines wahrnehmungsdiagnostischen Experiments [Deutenlassen von Zufallsformen]*. Bern: Hans Huber. [東京ロールシャッハ研究会（訳）（1958）精神診断学——知覚診断的実験の方法と結果（偶然図形の判断）。牧書店。]
- Rorschach, H. (1921) *Psychodiagnostik: Methodik und Ergebnisse eines wahrnehmungsdiagnostischen Experiments [Deutenlassen von Zufallsformen]*. Bern: Hans Huber. [東京ロールシャッハ研究会（訳）（1964）精神診断学——知覚診断的実験の方法と結果

- (偶然図形の判断): 付 H・ロールシャッハ伝. 牧書店.]
- Rorschach, H. (1921) *Psychodiagnostik: Methodik und Ergebnisse eines wahrnehmungsdiagnostischen Experiments [Deutenlassen von Zufallsformen]*. Bern: Hans Huber. [片口安史 (訳) (1976) 改訳版 精神診断学——知覚診断的実験の方法と結果 (偶然図形の判断). 金子書房.]
- Rorschach, H. (1972) *Psychodiagnostik: Methodik und Ergebnisse eines wahrnehmungsdiagnostischen Experiments [Deutenlassen von Zufallsformen]*, 9. Auflage. Bern: Hans Huber. [鈴木睦夫 (訳) (1999) 新・完訳 精神診断学——付 形態解釈実験の活用. 金子書房.]
- Rorschach, H. Zusammenge stellt und herausgegeben von Bush, K. W. (1965) *Hermann Rorschach: Ausgewählte Aufsätze*. Bern: Hans Huber. [空井健三・鈴木睦夫 (訳) (1986) ロールシャッハ精神医学研究. みすず書房.]
- Rose, T., Kaser-Boyd, N. and Malone, M. P. (2001) *Essentials of Rorschach assessment*. New York: Wiley. [小川俊樹 (監訳) (2005) 基本からのロールシャッハ法. 金子書房.]
- 佐藤忠司 (2004) 臨床心理査定アトラス——ロールシャッハ ベンダーゲシュタルト 火焰描画 バッテリー. 培風館.
- 佐藤忠司 (編著) (2007) 臨床心理査定アトラス法への招待. 培風館.
- 佐々木裕子 (2011) ハンドテストとロールシャッハ法——投映法バッテリーを学ぶ. 遠見書房.
- Schachtel, E. G. (1966) *Experiential foundations of Rorschach's test*. New York: Basic Books. [空井健三・上芝功博 (訳) (1975) ロールシャッハ・テストの体験的基礎. みすず書房.]
- Shapiro, D. (1960) A perceptual understanding of color responses. In: Rickers-Ovsiankina, M. A. (eds.) *Rorschach psychology*. New York: John Wiley & Sons. pp. 154-201., Shapiro, D. (1956) Color-response and perceptual passivity. *Journal of Projective Technique*, 20 (1), 52-69. [田澤安弘 (訳) (2005) ロールシャッハ色彩論. 大学教育出版.]
- 空井健三 (編) (1995) ロールシャッハ・テスト (精神医学レビュー, 17). ライフ・サイエンス.
- 鈴木正義 (1992) ロールシャッハ発達心理学. 長門出版社.
- 高橋雅春 (1964) ロールシャッハ解釈法. 牧書店.
- 高橋雅春・武田慎二 (1964) J.P.S. L.S.R.T.心理診断検査手引. 日本総合教育研究会.
- 高橋雅春・北村依子 (1981) ロールシャッハ診断法 I (ライブラリ心理学, 11). サイエンス社.
- 高橋雅春・北村依子 (1981) ロールシャッハ診断法 II (ライブラリ心理学, 12). サイエンス社.
- 高橋雅春・高橋依子・西尾博行 (1998) 包括システムによるロールシャッハ解釈入門. 金剛出版.
- 高橋雅春・高橋依子・西尾博行 (2002) ロールシャッハ形態水準表——包括システムびわが国への適用. 金剛出版.
- 高橋雅春・高橋依子・西尾博行 (2006) ロールシャッハ・テスト実施法. 金剛出版.
- 高橋雅春・高橋依子・西尾博行 (2007) ロールシャッハ・テスト解釈法. 金剛出版.
- 高橋雅春・高橋依子・西尾博行 (2009) ロールシャッハ・テスト形態水準表. 金剛出版.
- 高橋雅春・西尾博行 (1994) 包括的システムによるロールシャッハ・テスト入門——基礎編. サイエンス社.
- 高橋茂雄 (1968) ロールシャッハ・インクプロットの刺激価についての実験的研究 (心理学モノグラフ, 6). 東京大学出版会.
- 高橋茂雄 (1976) ロールシャッハの刺激価についての研究. 風間書房.
- 高橋依子 (2009) ロールシャッハ・テストによるパーソナリティの理解. 金剛出版.
- 戸川行男・本明寛 (1950) 臨床的精神診断法手引——早稲田大学改訂 ロールシャッハ検査. 金子書房.
- 戸川行男・松村常男・児玉省・懸田克躬・小保内虎夫 (監修) 本明寛・外林大作 (編) (1958) ロールシャッハ・テスト 1 (心理診断法双書, 第 1 巻). 中山書店.
- 戸川行男・松村常男・児玉省・懸田克躬・小保内虎夫 (監修) 本明寛・外林大作 (編) (1958) ロールシャッハ・テスト 2 (心理診断法双書, 第 2 巻). 中山書店.
- 東京都精神医学総合研究所臨床心理学研究室 (編) (1978) ロールシャッハ本邦文献抄録集——精神分裂病篇 (1950-1976). 東京都精神医学総合研究所臨床心理学研究室.
- 東京都精神医学総合研究所臨床心理学研究室 (編) (1979) ロールシャッハ本邦文献抄録集——神経症・心身症篇 (1950-1977). 東京都精神医学総合研究所臨床心理学研究室.
- 東京都精神医学総合研究所臨床心理学研究室 (編) (1981) ロールシャッハ本邦文献抄録集——小児・思春期篇 (1950-1979). 東京都精神医学総合研究所臨床心理学研究室.
- 東京都精神医学総合研究所臨床心理学研究室 (編) (1982) ロールシャッハ本邦文献抄録集——非行・犯罪・嗜癖篇 (1950-1980). 東京都精神医学総合研究所臨床心理学研究室.
- 牟田隆郎 (2005) 私・世界とロールシャッハ. ブレーン出版.
- 辻悟 (1997) ロールシャッハ検査法——形式・構造解析に基づく解釈の理論と実際. 金子書房.
- 辻悟 (2003) こころへの途——精神・心理臨床とロールシャッハ学. 金子書房.
- 辻悟・河合隼雄・藤岡喜愛・氏原寛 (編著) (1987) これからのロールシャッハ——臨床実践の歴史と展望.

- 創元社.
- 辻悟・福永知子(1999) ロールシャッハ・スコアリング—阪大法マニュアル. 金子書房.
- 上芝功博(1977) 臨床ロールシャッハ解釈の実際—ある研究会の記録. 垣内出版.
- 上芝功博(2007) 改訂増補 臨床ロールシャッハ解釈の実際—ある研究会の記録. 悠書館.
- 氏原寛(1986) 心理診断の実際—ロールシャッハ・テストと TAT の臨床的解釈例. 誠信書房. (2007 年にオンデマンド版が出版)
- 氏原寛(2005) ロールシャッハ・テストと TAT の解釈読本—臨床的理解を深めるために. 培風館.
- Ulett, G. A. (1960) *Rorschach introductory manual: self-teaching primer of Rorschach for the clinical psychiatric worker, the interpretive diagram arrange the scores in such fashion that some clinical use of test results is immediately possible while the student is learning the technique of the ink-blot test.* Missouri: Bardgett. [千秋弘道(訳)(1971) ロールシャッハ・テストマニュアル. 医学書院.]
- Weiner, I. B. (1966) *Psychodiagnosis in schizophrenia.* New York: Wiley. [秋谷たつ子・松島淑恵(訳)(1973) 精神分裂病の心理学. 医学書院.]
- Weiner, I. B. (1998) *Principles of Rorschach interpretation.* Mahwah, NJ: L. Erlbaum. [秋谷たつ子・秋元倫子(訳)(2005) ロールシャッハ解釈の諸原則. みすず書房.]
- Wood, J., Nezworski, M. T., Lilienfeld, S. O. and Garb, H. N. (2003) *What's wrong with the Rorschach?: since confronts the controversial inkblot test.* San Francisco, CA: Jossey-Bass. [宮崎謙一(訳)(2006) ロールシャッハテストはまちがっている—科学からの異議. 北大路書房.]
- 吉川武彦(2007) 実践・ロールシャッハ法—自分がよくわかる, 人がよくわかる, 臨床に役立つ. 関西看護出版.
- 吉村聡(2004) ロールシャッハ・テストにおける適応的退行と創造性. 風間書房.
- 大阪帝国大学.
- 堀内憲政(1949) 行爲問題の脳波及びロールシャッハ氏テスト成績並に兩者の関連性について. 新潟大学.
- 錦織透(1952) ロールシャッハ氏精神診断法による受刑者の精神医学的研究. 京都大学.
- 大西信正(1953) ロールシャッハ氏診断法及び TAT に依る肺結核患者の性格. 新潟大学.
- 高橋清彦(1954) 集団ロールシャッハテストに関する研究. 大阪大学.
- 辻悟(1955) ロールシャッハ・テストに関する研究. 大阪大学.
- 栗林正男(1957) 覚醒アミン中毒者のロールシャッハテストに関する研究. 大阪大学.
- 杉本直人(1957) 内因性精神病に於けるロールシャッハテストの研究. 京都大学.
- 菅野寿(1958) ロールシャッハテストによる精神分裂病の知的障害に関する研究. 新潟大学.
- YAMADA Yukio (1958) *Sur l'interpretation - couleur au test de Rorschach.* 金沢大学.
- 安達達五郎(1959) 改訂ロールシャッハ診断法による肺結核患者の性格. 新潟大学.
- 藤井久和(1959) ロールシャッハ・テストのコンテンツに関する研究. 大阪大学.
- 加藤正実(1959) ロールシャッハテストの応答内容に関する研究. 東北大学.
- 加藤みゆき(1959) 眞性癲癇のロールシャッハ・テストによる臨床的分類の研究. 京都大学.
- 安部寛(1960) 肢体不自由児におけるロールシャッハテストに関する研究. 熊本大学.
- 林英三郎(1960) ロールシャッハ・テストからみた精神分裂病の寛解および欠陥について. 日本大学.
- 小川暢也(1960) Rorschach Test による神経症診断の規準について. 九州大学.
- 佐藤桃平(1960) ロールシャッハテストによるてんかんの研究. 慶應義塾大学.
- 島田久一郎(1960) てんかんの Rorschach-Test に関する研究—側頭葉てんかんを中心として. 弘前大学.
- 高橋艶子(1960) ロールシャッハテストにおける精神疾患の鑑別. 慶應義塾大学.
- 宇佐晋一(1960) 森田療法の神経症に対する治療効果のロールシャッハテストによる研究. 京都大学.
- 山田旭(1960) MMPI 及びロールシャッハ・テストによる精神障害者の類型診断. 東北大学.
- 山口昭三(1960) 非定型精神病のロールシャッハテスト. 新潟大学.
- 片口安史(1961) Rorschach schizophrenic score (RSS). 順天堂大学.
- 片口安史(1961) ロールシャッハ・テストの研究. 東京大学.
- 木津雅晴(1961) 精神分裂病患者の両親についての研究—ロールシャッハ・テストを中心にして. 大阪医科大学.

《博士論文(2011年まで:発表年代順)》

RIM を用いた博士論文は数多くある。しかし、ここでは題目などから、RIM が中心課題であると判断されたもののみを抽出し、一覧としてまとめた。

- 岡田強(1932) ロールシャッハ氏精神診断学に於ける反應の質的分類並に本法による供述異常の分析. 京都帝国大学.
- 城谷敏男(1942) 前頭脳切除患者(癲癇)に施行せるロールシャッハ精神診断法に就て. 新潟医科大学.
- 黒田重英(1945) ロールシャッハ氏テストに関する研究.

- 栗原喬一 (1961) 精神分裂病の病的過程におけるロールシャッハテストの研究. 東京慈恵会医科大学.
- 大塚文雄 (1961) 精神分裂病の異種性に関するロールシャッハ研究. 大阪医科大学.
- 矢吹賀江 (1961) 飲酒者の人格研究——ロールシャッハ・テストによる. 東邦大学.
- 佐藤尚信 (1963) ロールシャッハテストによる精神分裂病寛解状態の研究——特に緊張型を中心として. 千葉大学.
- 吉田邦夫 (1963) ロールシャッハ・テストによるうつ病の研究——所謂内因性うつ病を中心として. 東北大学.
- 植元行男 (1964) ロールシャッハ・テストを媒介として, 思考, 言語表現, 反応態度をとらえる分析枠の考案とその精神病理研究上の意義. 名古屋大学.
- 馬場禮子 (1965) 境界例とその周辺領域——ロールシャッハ・テストによる精神学的研究. 慶應義塾大学.
- 門脇正 (1965) 神経症と分裂病の境界状態についてのロールシャッハ・テスト研究. 鳥取大学.
- 宮井理広 (1965) 精神運動発作性てんかんの治療過程についての器質力動的考察——ロールシャッハテスト所見を通じて. 東北大学.
- 森尾種之 (1965) 甲状腺機能亢進症に関するロールシャッハテストによる研究. 神戸医科大学.
- 高橋茂雄 (1965) ロールシャッハ・インクプロットの刺激価についての実験的研究. 早稲田大学.
- 加藤昌義 (1966) 緑内障患者の性格検査成績, 特に矢田部ギルフォード性格検査及び, ロールシャッハテストについて. 千葉大学.
- 北村さち (1966) うつ病者についてのロールシャッハテストの研究. 三重県立大学.
- 鈴木龍一 (1966) 社会復帰過程からみた分裂病者の人格障害——予后調査及びロールシャッハ再テストの知見をめぐって. 慶應義塾大学.
- 吉川武彦 (1966) ロールシャッハテストによる不安の研究——特に不安の顕在化と潜在化をめぐる精神力動について. 千葉大学.
- 藤岡喜愛 (1967) ロールシャッハ・テストにおける側頭葉てんかんの特徴. 京都大学.
- 河合隼雄 (1967) ロールシャッハ法の心理療法場面における適用性. 京都大学.
- 齊藤久美子 (1967) 「自我機能」と「現象的自己」の二つの枠組による人格適応の研究——ロールシャッハ法と自己評価法の統合的使用を試みる累積的研究. 京都大学.
- 丁子邦男 (1968) 精神分裂病患者に対する知覚遮断とロールシャッハテスト. 東北大学.
- 田頭悟 (1969) 精神分裂病, 神経症及び境界症例のロールシャッハ・テストによる研究. 長崎大学.
- 竹内龍雄 (1970) ロールシャッハテストによる離人症の精神分析学的研究. 千葉大学.
- 赤松晶子 (1971) 気管支喘息のロールシャッハテスト. 群馬大学.
- 古荘和郎 (1974) 精神分裂病者の両親の人格特徴——ロールシャッハ・テストによる自我構造論的検討. 大阪大学.
- 鈴木浩二 (1974) 精神分裂病患者の家族研究——家族ロールシャッハ・テストによる研究. 順天堂大学.
- 橋玲子 (1974) ロールシャッハ法の類型分析と精神分裂病の初期の崩壊について. 新潟大学.
- 青木泰亮 (1976) ロールシャッハ法による非定型精神病の研究——把握型を基軸とする検討. 大阪医科大学.
- 高山巖 (1976) ロールシャッハ・テストから見た気管支喘息その他 2, 3 のアレルギー疾患者の性格特徴についての研究. 鹿児島大学.
- 細木照敏 (1980) ロールシャッハ・テストにおける立体反応の臨床心理学的研究. 東京大学.
- 小川俊樹 (1981) パーキンソン病のロールシャッハ・テスト研究. 順天堂大学.
- 佐藤能史 (1981) 脳卒中リハビリテーション過程における認知自我機能の変化について. 京都府立医科大学.
- 西田京子 (1982) 精神分裂病の予後判定に関する研究——ロールシャッハ・テストおよび臨床評価点に基づいて. 東京慈恵会医科大学.
- 橋口英俊 (1983) 眼窩・下内側面の皮質下白質切截術 (Orbito-ventromedial undercutting) 眼施行前後における Rorschach 反応の分析. 日本医科大学.
- 中村宏子 (1984) 脳器質障害者のロールシャッハ反応——頭部 CT 所見より障害部位別にみたロールシャッハ反応の特徴. 鳥取大学.
- 鮫島和子 (1984) 登校拒否のロールシャッハ反応に関する研究. 鹿児島大学.
- 廣瀬清孝 (1985) アルコール症者のロールシャッハ研究. 岩手医科大学.
- 星野良一 (1985) 老年期のうつ病と神経症の心理学的特徴に関する研究. 東邦大学.
- 児玉憲典 (1985) ロールシャッハ・テストによる精神分裂病の経過研究. 杏林大学.
- 中野明德 (1985) 境界型人格障害 (DSM-III) の人格構造に関する研究——ロールシャッハ・テストによる数量的分析. 東京大学.
- 成井和雄 (1988) アルコール症者の人格特性——ロールシャッハテスト・MMPI による. 岩手医科大学.
- 篠崎徹 (1990) ロールシャッハテストを用いた長期在院慢性分裂病者の臨床経過に関する研究. 東京慈恵会医科大学.
- 丹治光浩 (1990) 小児気管支喘息におけるロールシャッハテスト像の変化. 東邦大学.
- 宇都宮克也 (1991) 精神分裂病者の事象関連電位とロールシャッハ・テスト. 鳥取大学.
- 角藤比呂志 (1992) 非定型精神病のロールシャッハテスト研究——ロールシャッハによる類型化の試み. 順天堂大学.
- 伊藤幹子 (1993) ロールシャッハ法による舌痛症患者の人格特性に関する研究. 愛知学院大学.

- 松井仁 (1993) ロールシャッハテストの心理測定論的研究. 東京大学.
- 木場清子 (1994) 精神分裂病患者の自我境界としての身体像境界——ロールシャッハ・テストによる精神病理学的検討. 金沢大学.
- 原田眞理 (1996) ロールシャッハ・テストによる摂食障害患者の臨床像の特徴についての考察. 東京大学.
- 原田直子 (1996) 慢性分裂病患者のロールシャッハ・テスト時の注視点に関する研究. 東京医科歯科大学.
- 稲富仁 (1996) 入院森田療法における絶対臥褥経過と治療効果の予測因子の検討——生活史とロールシャッハ・テスト所見を用いて. 東邦大学.
- 高橋依子 (1999) 包括システムによるロールシャッハ・テストの特殊スコアの検討と精神分裂病者の思考障害. 京都大学.
- 篠田美紀 (2000) 痴呆性高齢者の心理に関する発達臨床心理学的研究——ロールシャッハ・テストからみた自我機能の発達の考察. 大阪市立大学.
- 高橋靖恵 (2000) Consensus Rorschach 法による家族コミュニケーションに関する臨床心理学的研究——青年期精神障害者への理解と援助. 名古屋大学.
- 弘田洋二 (2001) ロールシャッハ・テスト反応の認知構造分析と人格病理に関する臨床研究——認知体験と情動, 思考, 防衛の関連. 大阪市立大学.
- HORI Yasuko (2002) Eye movements during the Rorschach test in schizophrenia. 鹿児島大学.
- 二橋那美子 (2003) ロールシャッハ・テストによるアルツハイマー型痴呆の研究. 横浜市立大学.
- 松本真理子 (2003) 子どものロールシャッハ法に関する研究——ロールシャッハ法の新たな意義の構築に向けて. 名古屋大学.
- 松瀬留美子 (2003) 自閉症児の心理学的特徴についての考察——ロールシャッハ法による検討. 金城学院大学.
- 吉村聡 (2003) ロールシャッハ・テストにおける適応的退行と芸術的創造性. 早稲田大学.
- 相河和佐 (2004) ロールシャッハ法による青年期の対人恐怖心性と自己愛傾向についての研究. 金城学院大学.
- 小西宏幸 (2004) 包括システムによるロールシャッハ・テストの反応スタイルに関する基礎研究. 関西大学.
- 田畑紀美江 (2004) 双生児に対するロールシャッハ・テスト——思春期双生児の相互関係が個人差に及ぼす影響. 東京国際大学.
- 青木佐奈枝 (2006) ロールシャッハ・テストから見た解離性障害者の特徴. 大阪大学.
- 佐々木裕子 (2008) 投影次元の違いによる心理検査法の理解——ハンドテストとロールシャッハ法のテストバッテリーを中心に. 筑波大学.
- 阿部宏徳 (2009) ロールシャッハ・テストの把握型システムに関する一考察——色彩領域に対する反応形式に基づいた分類法の提案. 筑波大学.
- ASARI Tomoki (2009) *Structural and functional neural correlates of unique responses to the inkblot test*. 東京大学.
- 明光光宜 (2009) 高機能広汎性発達障害のロールシャッハ法に関する研究——発達障害を捉えるロールシャッハ法の方法論の構築. 中京大学.
- 寺崎文香 (2010) 青年期の自己信頼感とロールシャッハ反応に関する研究——揺らぎと回復の視点から. 九州大学.

引用文献

- 1) 片口安史 (1987) 改訂 新・心理診断法. 金子書房.
- 2) 小川俊樹 (2011) 日本のロールシャッハ法. *ロールシャッハ法研究*, **15**, 10-19.
- 3) Wood, J.M., Nezworski, M.T., Lilienfeld, S.O. and Grab, H.N. (2003) *What's wrong with the Rorschach?: science confronts the controversial inkblot test*. San Francisco, CA : John Wiley & Sons. [宮崎謙一訳 (2006) ロールシャッハテストはまちがっている——科学からの異議. 北大路書房.]

付記

最大限の努力をはかり文献を収集したつもりである。万一、欠落をお気づきの方は、ご指摘いただければ幸甚である。なお、本研究は、平成 23 年度財団法人日本学術振興会科学研究費補助金 (若手研究 B : 23730653) の助成を受けた。